

奉納相撲は、江戸時代より続く伝統行事、一時お休みした時期もありましたが毎年10月船橋大神宮で行われ、昨年令和5年10月も盛大に開催されました。今回は、NHKの紀行番組「新日本風土記—船橋—」の中で全国に放映された「奉納相撲大会」についてご案内します。

「奉納子供相撲大会の由来」

関東でも屈指の草相撲大会になっている船橋大神宮奉納相撲大会は、今から430年程前天正18年(1590)徳川家康公が東金方面への鷹狩の途中、船橋に宿泊した際、船橋の人達は家康公をもてなすために近在の漁師の子供らを集め元気一杯に相撲を取る姿をお見せしました。

家康公は大変お喜びになり、これを賞し信仰厚かった船橋大神宮に奉納したものと伝わっています。

以後大人相撲へと発展した歴史がありますが、近年船橋大神宮例祭10月20日に行われます大人相撲の最初の一番は必ず子供に取り組ませるのは、前記の故事によるものです。

令和元年には、奉祝 天皇陛下御即位大嘗祭 船橋大神宮 奉納相撲大会が盛大に行われました。

参加児童数は、年々増加し昭和53年には70名でしたが、平成30年には327名が参加しました。

このように船橋は江戸時代より相撲が盛んで、江戸時代に46歳まで現役で活躍した船橋出身の関脇(当時は大関が最高位)二代目荒馬吉五郎を輩出、船橋の不動院の墓地に埋葬されています。

「船橋の相撲甚句 船橋大神宮奉納相撲」

ケンカ相撲の呼び名も高いヨ ここは船橋大神宮 十月二十日の大祭に
江戸のころより伝わりし 奉納相撲の賑わいは 近郷近在の腕に覚えの若者の
力と技のせめぎ合い 心整え礼尽くし 土俵踏み締め胸あわせ
浜っ子たちの心意気 まわし一本男気の 内がけ外がけよりたおし
下手差してのすくいなげ 八十二手なる決め技に わきにわたる境内は
実りの秋の風涼し 今年も豊年大漁の海山幸の有難さ
民の幸せ守りたる大神宮の大社 千代に八千代に栄えあれヨ (香澄)

(参考資料・写真：船橋市恒例相撲委員会案内令和元年版 他)

「42 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(13)に続く」「2024-4-1 寄稿」



奉祝 大嘗祭 奉納相撲大会(令和元年) 案内表紙
写真 明治の建築 船橋大神宮客殿



参加小学生
上3・4年生 下5・6年



船橋大神宮 奉納相撲大会
最初の取り組み子供相撲